



図24 運動型細胞出現率に及ぼす培地換え効果

(4) 運動型細胞出現率向上試験

図 24 に運動型細胞出現率に及ぼす培地換え効果を示した。培養日数が同じ6事例(ヒレ2、3、4、ヒレナシ2、4、5)は、1～4日前に培地換えを行い、出現率が1.2～14倍に向上した。ヒレナシ1は9日から13日にかけて出現率が低下したが、培地換え5日後に3.3～6.9倍に向上した。ヒレ1、ヒレナシ3は培地換え2～3日後に1.5～5.5倍に向上した。

以上の結果から培地換えは運動型細胞出現率を高める効果があると判明した。

3. シャコガイ初期仔貝との共生の検討

(1) 細胞形態の違いによる共生試験

表 27 に結果を示した。11回の試験回次中、全試験区で共生できなかった回次が7回あり、これらの回次は、シャコガイ孵化幼生の活力に問題があったと考えられた。それ以外の4回次中運動型細胞区が静止型細胞区の共生率を上回った事例が2事例あった。各回次における仔貝供試個体数が少なく、共生率が全体的に低かった。また、運動型細胞区として設定した区が静止型細胞区に比べてどの程度運動型細胞が出現していたのか疑問が残った。

表27 細胞形態別共生試験結果

試験回次	仔貝種類	細胞形態による試験区	仔貝飼育個体数	共生成立個体数	共生率 (%)
1	シラナミ	静止型区	36	4	11.1
		運動型区	36	4	11.1
2・3・4	ヒメジャコ	静止型区	36	0	—
		運動型区	36	0	—
5	シラナミ	静止型区	36	0	—
		運動型区	36	0	—
6	ヒレジャコ	静止型区	100	0	—
		運動型区	100	0	—
		対照区	100	1	1.0
7	ヒメジャコ	静止型区	100	0	—
		運動型区	100	0	—
		対照区	100	0	—
8	ヒメジャコ	静止型区	300	1	0.3
		運動型区	150	1	0.7
9	ヒメジャコ	静止型区	100	0	—
		運動型区	100	0	—
10	ヒメジャコ	静止型区	150	0	—
		運動型区	150	0	—
11	ヒメジャコ	静止型区	150	0	0
		運動型区	150	3	2.0